



トピックス…①

酪肉近における新たな酪農経営類型

農林水産省は3月31日、2019年度第13回食料・農業・農村政策審議会畜産部会を開き、酪肉近代化基本方針で定める新たな酪農経営類型の考え方（指標）を提示した。

1. 経営類型策定のための指標

平成27（2015）年3月に策定された経営指標では、「我が国の酪農及び肉用牛生産の生産基盤を維持・強化し、持続的な成長・発展を図るためには、それぞれの多様な経営判断により、生産コストの低減や販売額の増加に資する取組を効率的に組み合わせ、収益性の向上を図ることが重要である。」という考え方の下、競争力の高い経営モデルとして、

- ① 外部支援組織の活用や省力化機械の導入を通じた労働負担の軽減・規模拡大、
- ② 放牧の活用や飼料用米等の国産飼料の生産・利用の拡大を通じた飼料の安定確保・コスト低減、
- ③ 6次産業化やブランド化を通じた販売額の増加などの収益性の向上に資する複数の取組からなる酪農の6経営類型が設定された。

今次の経営指標においては、前回の経営指標の考え方を引き続き目指すべきものとした上で、「農業新技術の現場実装推進プログラム」(2019年6月策定)を踏まえて、農業新技術を積極的に取り入れた経営モデルが提示された。

具体的には、

- ① 生産基盤を強化し、持続的な成長・発展を図るといった観点から、前回の経営類型をベースとしつつ、
- ② 「農業新技術の現場実装推進プログラム」の考え方等も織り込んだ新技術の実装や、
- ③ 外部支援組織や他の畜産経営との地域連携により、持続的・安定的な経営を実現する中小家畜経営と、積極的に規模拡大した大規模法人経営の6経営類型が設定された。

2. 新たな土地条件別の6経営類型

新たな6経営類型では、土地条件の制約が小さい地域（主として北海道）と大きい地域（主として都府県）に分け、土地条件の制約

が小さい地域については、

- ① 乳量を維持しつつ、生産性の高い草地への集約放牧により、ゆとりを確保し、加えてチーズ等の製造・販売により収入の増加を図る「家族経営」、
- ② 搾乳ロボット等により省力化しつつ収益力の向上を図り、夫婦2人で経営が可能な範囲で規模拡大を図る「家族経営」、
- ③ 飼料生産・調製や飼養管理の分業化・機械化等による省力化・効率化を通じ、規模拡大を図る「大規模法人経営」の3類型（表1）が設定された。
また、土地条件の制約が大きい地域については、
- ④ コントラクターの活用等により省力化しつつ、つなぎ飼いで生産性の向上を図りつつ、持続化・安定化を実現する「家族経営」、
- ⑤ 搾乳ロボット等により省力化しつつ、規模拡大を図るとともに、性別別技術・受精卵移植技術を活用した効率的な乳用後継牛確保と和子牛生産により、収益性の向上を図る「家族経営」、
- ⑥ 耕畜連携により経営の持続性を確保するとともに、チーズの製造・販売により収入の増加を図る「大規模法人経営」の3類型（表2）が設定された。

表1 新たな酪農経営指標（土地条件の制約が小さい地域：主として北海道）

	1	2	3
経営類型の特徴	乳量を維持しつつ、生産性の高い草地への集約放牧により、ゆとりを確保した家族経営	搾乳ロボット等により省力化しつつ、収益力の向上を図り、夫婦2人で可能な範囲で規模拡大を図る家族経営	飼料生産・調製や飼養管理の分業化・機械化等による省力化・効率化を通じ、規模拡大を図る大規模法人経営
土地条件	牧草地主体	畑主体	畑主体
経営形態	家族（1戸1法人を含む）	家族（1戸1法人を含む）	法人
地域連携モデルへの位置付け	-	-	地域の担い手の確保を図るための経営資源継承の取組
飼養規模	経産牛80頭	経産牛100頭	経産牛500頭
飼養方式	つなぎ	フリーストール	フリーストール
新技術の実装	搾乳ユニット自動搬送装置、ICT等を活用した草地管理技術	自動給餌機、搾乳ロボット、発情発見システム、分娩監視装置、性別別技術・受精卵移植	搾乳ロボット、自動給餌機、発情発見システム、搾乳ロボット（ロータリー型）
外部化	酪農ヘルパー	育成牛預託施設 TMRセンター 酪農ヘルパー	コントラクター
給与方式	分離給与	TMR給与	分離給与
放牧利用	放牧	-	-
6次産業化部門	チーズ等の製造・販売により収入を増加	-	-

表2 新たな酪農経営指標（土地条件の制約が大きい地域：主として都府県）

	4	5	6
経営類型の特徴	コントラクターの活用等により省力化しつつ、つなぎ飼いで生産性の向上を図りつつ、持続化・安定化を実現する家族経営	搾乳ロボット等により省力化しつつ規模拡大を図るとともに、性別別技術や受精卵移植技術を活用した効率的な乳用後継牛確保と和子牛生産を行い、収益性の向上を図る家族経営	耕畜連携により経営の持続性を確保する大規模法人経営
土地条件	畑又は水田	畑又は水田	畑又は水田
経営形態	家族（1戸1法人を含む）	家族（1戸1法人を含む）	法人
地域連携モデルへの位置付け	労働負担軽減等に資する外部支援組織の活用	肉用牛増頭と乳用後継牛確保を図るための地域連携	-
飼養規模	経産牛40頭	経産牛100頭	経産牛200頭
飼養方式	つなぎ	フリーストール	フリーストール
新技術の実装	自走式配餌車、分娩監視装置、搾乳ユニット自動搬送装置	自動給餌機、搾乳ロボット、性別別技術・受精卵移植	自動給餌機、バーラー（パラレル）、搾乳ロボット
外部化	育成牛預託施設 コントラクター 酪農ヘルパー	育成牛預託施設 TMRセンター 酪農ヘルパー キャトルステーション（和子牛哺育）	育成牛預託施設 コントラクター
給与方式	分離給与	TMR給与	分離給与
6次産業化部門	-	-	チーズの製造・販売により収入を増加